

# 第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



中学生の部 優秀賞 受賞作品

『でたらめをやってごらん』

東京都

ドルトン東京学園中等部

一年 土屋 大道

でたらめをやってごらん

ドルトン東京学園中部 一年  
土屋 大道 (つちや たいどう)

小学五年生の夏、僕は中学受験をする決意をしました。理由は、どうしても通いたい中学校があったからです。

すぐに塾に通い始めたものの、もともと勉強が苦手だったため、成績はまったく上がりません。塾の先生からも「第一志望の合格は厳しいかも」と言われていました。それでも塾に通い、宿題をする日々。「勉強めんどくさい、休みたい!」という気持ちが抑えられず、爆発したこともたくさんあります。両親に何度「そんなに勉強したくないなら、受験しなくてもいい」と叱られたことか。そんな頃、僕は岡本太郎に出会いました。

僕が岡本太郎を知ったきっかけは、NHKのEテレの「TAROMAN (タローマン)」という番組です。その番組がとてもおもしろく、いろいろと調べたところ、岡本太郎の作品や名言をモチーフにしていることを知りました。

岡本太郎は日本を代表する芸術家です。しかし、僕がもともと抱いていた芸術家のイメージを壊してくれた人です。

芸術家とは、本物そっくりにデッサンしたり、上手に絵を描いたり、きれいな造形物を作る人だと思っていました。

しかし、岡本太郎は、そのイメージを壊すような作品を次々に世に発表します。僕は、岡本太郎に出会うまで絵を描くのに、作品を作るのにもたくさんルールがあって、芸術はきゆうくつなものだと思っていました。だから面倒くさいと思っていました。しかし岡本太郎に出会って、「自由でいいんだ」と思えました。

すっかり岡本太郎にはまった僕は、すぐに川崎市にある岡本太郎美術館へ行きました。そして太郎の代表作「明日の神話」が飾られている渋谷駅や表参道の岡本太郎記念館にも行きました。

また、岡本太郎は芸術作品だけでなく、たくさんの本を書き、多くの名言を残しています。僕が好きな岡本太郎の名言を紹介します。

芸術は爆発だ／自分の運命に楯を突け／自分の中に毒を持って／僕の職業は人間だ／一度死んだ人間になれ／同じことを繰り返すくらいなら、死んでしまえ／べらぼうな夢はあるか……などです。ほかに好きな名言はたくさんありますが、なかでも僕の人生を変えてくれた名言が「でたらめをやってごらん」です。

岡本太郎に出会い、たくさんさんの名言に励まされたけれど「勉強めんどくさい、休みたい!」という気持ちは大きくなるばかり。いつやめてもよかったけれど、せっかくなのでがんばってきたのにやめてしまうのはもったいないと、なんとか二月まで受験勉強を続けました。

第一志望の学校は、試験(作文)のほかに面接があります。塾の先生と面接の練習をたくさんしました。面接練習を五、六回繰り返すうちに、志望理由や自宅から学校までの行き方、自分の長所・短所、小学校時代の思い出などについて、スラスラと答えられるようになりました。

そして迎えた二〇二三年二月二日。第一志望の中学校の受験日です。作文の試験を終え、面接の時間となりました。

面接室の前で待っていると、前の人の面接の様子がうかがえます。面接室はシーンとして

いました。そして自分が呼ばれました。

面接官は男性二人。志望理由や入学したらやりたいことなどを質問されました。緊張したけれど、まじめに答えました。

だけど、まじめに答えるだけで本当にいいのかと思いました。

そして、もともと面接練習の項目になく、言おうかどうかどうしようかとても迷ったけれど「岡本太郎のような人になりたい」と発言しました。

すると面接官二人がとても興味をもってくれ、たくさん質問をしてくれました。そして、たくさん笑ってくれました。なぜ岡本太郎が好きなのか、好きな作品はなにか、あなたにとって岡本太郎とはなんですかと聞かれ、一生懸命自分なりに答えました。

それが評価されたのかは分かりませんが、第一志望の中学校に合格しました。

面接では、まじめな話をしなければと思っていたけれど、思い切って岡本太郎の話をしてよかった。「でたらめをやってごらん」ってほんとうだ。正しいんだ！

僕が大人になったとき、どんな場面でも思い切って発言や行動をしていきたい。「でたらめをやってごらん」の精神で。